

イエスは 主なり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 '96. 5. 1 103



神を待ち望め

詩篇 42:4,5

島 隆 三

ジョン・ウェスレーがオックスフォード大学のチャペルで最後の説教をしたのは、1744年、ウェスレー 41 歳のときであった。彼は、その時満堂の会衆に「聖書的キリスト教」と題して語った。使徒行伝の聖句を中心に、旧新約を縦横に引用して、キリストの恵みが人の心と生活にどのように受肉していくかを諄々と語り、最後に、これがキリスト教であるとするならば、どこにこのようなキリスト教が見られるか、英国はキリスト教の国と言えるか、オックスフォードの町は？また大学は？と迫った。この説教は会衆を悔い改めに導かず、かえって大きな反感を買った。それきり、彼は大学の講壇に迎えられることはなく、ひいては、国教会の講壇がみな彼に門戸を閉ざし、止むを得ず、路傍で、家庭で、また、集会所で、彼は信ずるところを大胆に語った。かくして、キリスト教と言っても名ばかりであった多くの人々の信仰を呼び覚まし、その生活が一新されていったのである。

メソジストリバイバルの根底には、「聖書的キリスト教」があり、「聖書の神は今も生きて働かれる」という確信があった。

私は、ホーリネス教会に育った。といっても、戦後のことだから、戦前のホーリネスのリバイバルや分裂を耳で聞いたに過ぎない。しかし、子供の頃から、教会で聞いてきた説教は「聖書的キリスト教」であった。牧師は、3年半に近い獄中の試練を乗り越え、一旦解散させられた教会の再建に懸命であった。信徒たちも牧師を助けて、一生懸命であったと思う。戦後の一時期はキリスト教ブームとも言われた。しかし、なお牧師の心から去らなかったのは、「これが果たして聖書的キリスト教か」という思いではなかったか。

わたしはかつて祭りを守る多くの人と共に群れをなして行き、

喜びと感謝の歌をもって彼らを神の家に導いた。

今これらの事を思い起して、わが魂をそそぎ出すのである。

わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。なにゆえわたしのうちに思いみだれるのか。

神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう。

アシュラムに出会ったことは、私には大きな喜びであった。もしアシュラムの恵みを知らなかったら、途中で挫折していたかもしれない。アシュラムは、どこまでも聖書に聴き、それに従うことを目指す、息の長い運動と理解している。欠けだらけの小僕に過ぎないが、先輩たちにならって、リバイバルを求め続けたい。わが魂よ、神を待ち望め！アアメン

(関東地区委員、西川口教会牧師)



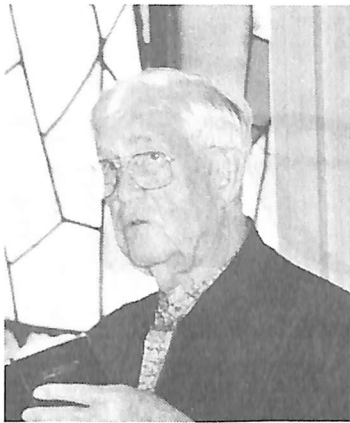
スタンレー
ジョーンズ
コーナー

説教者・アシュラム創始者ジョーンズの生涯
J. J. SIMONS

正に開戦の前夜、ルーズベルト大統領から電報が送られました。それはワシントン駐在特命使節栗栖氏と寺崎氏の提案がスタンレー・ジョーンズを通してルーズベルト大統領に伝えられたためでした。

後に、天皇はその顧問の寺崎氏に、あの電報が一日早く届いていたら、この戦争は起こる必要がなかったのだ。と語られたという事です。

あなた方はどのようにして、クリスチャンアシュラムが始まったかをご承知です。永年にわたるインドに



於ける、また国際的な場における宣教活動の経験から、スタンレー・ジョーンズは、最も必要とされているのは、クリスチャン生活を効果的にする団体的なキリスト教的訓練の方法であるとの結論に達しました。インド教に、それに役立つモデルがありました。アシュラムは宗教的退修会です。サンスクリット語では、アシュラムのAは否定、シユラムは労働、つまり我々の日々の労働の世界から退く場所を意味しています。或いは労働が強化される経験―すべての中で最も激しい労働、即ち祈りを経験―する場所を意味することになります。そのようにして、E・スタンレー・ジョーンズはアシュラムという語に洗礼を授けて、キリスト教の目的のために受け継いだのです。第一回はヒマラヤの麓にあるサトタル(七つの湖)で行われました。一九三〇年以來その働きはそこで継続されています。それから徐々に、日本を含む世界の他の場所に広がりました。既に言いましたように、E・スタンレー・ジョーンズは何よりも先ず福音宣教者でした。彼は自らその良いおとずれに応答してからは、彼は大きい喜んで……実際突き動かされました。彼はすべての人に、すべての所で、いつでも福音宣教者でした。

福音伝道という語は新約聖書に現われませんが宣教者という語は出ています。スタンレー・ジョーンズは喜んで、そして効果的に「宣教者の働き」をしました。彼を知っている多くの人々の見るところでは、彼はその時代の最も目立った宣教者でありました。よく見られるのは、その働きが不評判になる、職業的伝道者の手にあるために、時には悪く言われる職業となることです。その時、神は宣教者の名誉を回復する人々を起さされるように思われます。その時代にとり、ジョーンズはこれらの人々の一人でありました。

彼は一八八四年一月二日に、メリーランド州のクラークスビル、バルチモアから遠くない農村で生まれました。彼はいつもバルチモアを故郷の町と考えていました。彼は四人の子の一人でした。二人の兄弟と一人の姉妹がありました。彼の父は農業を副業とし、町から西に延びる主な幹線道路である国の有料道路の通行料徴収人でした。

父親は見たところ強い人ではなく、家族に力を与え、安定させたのは、母親でした。彼が自ら認めたところでは、彼の家族的背景は、風采、教育、賜物ともすべて普通でした。スタンレー・ジョーンズを特別な人にしたことは、彼が十五才の時、起

るべくして起こったこと、即ち彼の回心でした。実際、彼は二度の回心に就いて語っています。第一は彼が言うところの、水平的変化―外だけの変化です。垂直的―本物の変化は二年後、一九〇一年に來ました。その時、彼は内側からも、根本的に、永続的に変えられたのです。

彼はこの変化を成し遂げはしませんでした。その意味の全体を把握しようと努めてやみませんでした。その経験と彼の救い主のことを外の人々に勧めて、うむことがなかったのです。回心は正に彼の生涯と奉仕の主たるテーマでした。

(白川訳)

アシュラム生活最良の友
アパ・ルーム
 海老沢 宣道 編集
 (年6回刊行の日々の糧)
 国際的、超教派的、靈的な読物
 価250円、千90円、年2,040円(千共)

申込先 ☎256 小田原市国府津3-11
 振替口座 00110-7-193834 アパ・ルーム
 電話番号 0465-48-2010

日本語版は創刊以来45年続行中

〈四十年の恵み〉

日本アシュラムの歩み(2)

海老沢宣道

〔第一回の来日〕

今回は特にマコンネル博士を同伴され、主イエスの時代から実行された訪問伝道を教え、信徒の参加を奨励された。その後、多くの教会の賛同を得て、訪問伝道講習会が各地に催され、全国的組織に成長発展して今日に至っている。



第三回の来日は更に二年後の一九五三年二月から三ヶ月間、毎日全国を巡回され、五都市で一四三回の集会を開き、約八万人の出席があった。約三万の決心カードが集められた。今回は東京の日比谷公会堂で大衆に語り、共立講堂で信徒大会を催したのが特記すべきことである。

第四回の来日は更に二年後の一九五五年で同じく二月から三ヶ月間、NCC宣教百年記念協同伝道として、七十一才の博士が前回より多い七〇市町村を巡回し、一七四回の集会を教会共同や単独で、また学校その他で開き、共立講堂の東京信徒大会には約二千名の出席があった。また訪問伝道開始四年の大会を銀座教会で開いたところ、六五〇名の多数が集まり、牧師信徒が連帯しての伝道の効果を喜ぶ証しが多かった。博士は「使徒行伝は初めの五章を除き、以下全巻は平信徒による福音宣教の記録である」とアピールされた。

尚今回の当初二月七日から十日まで三泊四日間、全国から有志を天城山荘に集めて、博士指導の下に日本最初の退修会(アシュラム)を催し、使徒時代の教会生活を体験し、聖霊の感化に浴せしめられた。かくて再献身の決断を与えられた百数十名は誓約文に署名して、全国にこの霊火を伝えようと帰路についたのである。

その誓約文は本紙の三十三号と百号に掲載されているが、この集会は現代キリスト教史におけるペンテコステとも言うべき実に画期的な出来事であった。

その時の記念写真が発見されたので、ここに掲げるが、スタンレーを初め安村三郎、小崎道雄、小原十三司、白水万里、柏井光蔵、海老沢亮、金井為一郎、吉田隆吉、岡田実、大谷賢一、泉田、福山、立石、倉田、寺尾、伊藤吉崎、大橋などの諸先輩の顔が見える。

★九州一日アシュラムの報告★

事務局 岡山敦彦

二月十二日(祝) 西南女学院河内研修所で行われ、三十一名が参加した。鍋倉勲師が全体を指導、ヨハネ十三章一十七章を読み、示された恵みを、新しい方々とも分かち合いました。主にある兄弟姉妹として和気あいあいの、とてもよい雰囲気の間で交わりでした。今年の九月にも開かれるアシュラムでの再会を約して分かれましました。

アシュラムの五大原則

- (一) キリストへの明け渡し
- (二) 御言への静聴と立証
- (三) 聖霊の啓導と充満
- (四) 教会への奉仕と伝道
- (五) 神の国の体験と献身

▼聖ヨハネによる福音書

D.P.タイタス著 海老沢・飯島共訳
価一、二〇〇円 千二四〇円

▼御国を来らせ給え

D.P.タイタス著 植村俊雄訳
価三〇〇円 千九〇円

▼インド途上のキリスト

一九八六年一〇月改定版
E.S.ジョーンズ著新訳者 瀧江淳一
価一、九〇〇円 千三六〇円

▼アシュラムの原則と実際

海老沢宣道 著 第三版
新書版五二頁三〇〇円 千九〇円

発行所 アシュラム連盟事務局
振替口座 〇〇一〇〇一・四五五八

日本アシュラム四十年記念出版

◆最新刊・好評◆

今世紀最大の世界的宣教師
スタンレー・ジョーンズ博士著
白川鄭二・飯島庸江共訳

いかに祈るか

祈りの人スタンレーが祈りとは何か、祈りの段階と方法と実例を親切に教えている好著

新書判七〇頁

定価六〇〇円 千一九〇円

発行所 日本クリスチャン・アシュラム連盟

◆教会その他の祈祷会で用ゆるのに最適の好テキスト



《二十七回城北アシュラム報告》

城北アシュラムが、今年の二月十一日、「主とともに歩む」(創世記十七章一節)の主題のもと、昨年十一月に献堂されたばかりの池の上教会を会場に行われました。

主催教会(新宿西教会、更生教会、天門教会、池の上教会)以外からも多くの方々のお申し込みがあり、当日は一〇四名の方がご出席くださり感謝いたしました。

「開心の時」を有馬歳弘師がお導きくださり、続いて十一のグループに分かれて「祈りの細胞」、昼食をと

にしなごらの楽しい交わりの時と続き、午後からは「静聴の時」を細谷武英師、「福音の時」を横山義孝師、コーヒー・ブレイクの後、二回目の「祈りの細胞」、そして「充滿の時」を海老沢宣道師、最後に記念写真を撮って散会いたしました。

新会堂をアシュラムの集会で、しかもこのように多くの方々がお集いくださって用いていたくださることができ、感謝いたしました。

池の上教会牧師 島津吉成

日本アシュラム連盟主催 第四回セミナー参加募集

スタンレー・ジョーンズ博士により創始されたアシュラム(祈禱生活)運動は恵みのうちに、昨年四十年記念を祝うことができました。博士が

召天されて既に二十年余、我々は直接その声咳に接することはできませんが、その信仰と実践の指導を受けようと、一九九二年夏からセミナーを開き、その著書を学んで、新しい霊力を与えられてきました。昨年だけは四十年記念事業のため休会、今年第四回を例の如く、山崎製パン箱根山荘で開きます。僅か一泊の催しですが、各地から有志が大挙して参加されんことを期待いたします。

理事長 海老沢宣道

◆第四回スタンレーを学ぶ会

日時 一九九六年六月四日(火)

午後二時~五時(水) 正午

会場 山崎製パン箱根山荘

(箱根町仙石原二四二五)

主題 スタンレー・ジョーンズ著「震わ

れぬ御国と不変の人格」の読書

発表・測江千代子姉

参加費 一泊三食六千円 当日受付

申込 五月二十五日までにハガキを以て

〒一五二一東京都目黒区中央町

一〇二二一〇

碑文谷教会内アシュラム連盟事務所

電話 〇三三七二二一五七五八

持参品 聖書・讚美歌・洗面具等

第三十四回関東アシュラム予告

一九九六年九月二十三日(休)~二十五日(水)

山崎製パン箱根山荘に於いて

主題 イエスは主なり

助言者 在日大韓教会 金 元治師

会費 一八、〇〇〇円

申込先 〒一五二一 目黒区中央町

一〇二二一〇

碑文谷教会関東アシュラム委員会

電話 〇三三七二二一五七五八

※金元治師は一九二二年生れ、同志社大学神学部及トロント大ノックス神学院卒、在日大韓、西成教会元老牧師で、奈良に居住しておられる。

《アシュラムの恵み》

金 元治

戦後間もなく有馬で開かれたジョーンズ博士のアシュラムに出席しました。開心の時に自分の心を開くという目的のはっきりした充実した時間をもてたのです。心の願い、罪の悔い改めが明らかになりました。

恵みの分ち合いも、過去の恵みの証しよりも、この集会で得た新鮮な恵みの分ち合いがよかったです。恵みの座に進み出て祈ってもらったのもよかったです。後年、聖霊の恵みを受けたので前に出て祈ってもらった時に、先生は「感謝しなさい。もう聖霊の恵みを受けたのだから感謝しなさい」と云われ、素直に感謝したことを、今も恵の時であったと覚えています。それから私は集会でアシュラムの恵みを証しするようになりました。関西地区韓国教会では最近毎年アシュラムを開いています。

海老沢宣道の新書

神に就いての黙想

B6判、150頁、価1,300円 円240円

願熟老を、神との生きた対話・交わりを、いつ綴られた信仰の随想。提起した著者が現代の教会に問題提起しつつ語りかけるメッセージ。

発売所 キリスト新聞社

取次 日本クリスチャン・アシュラム連盟